

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成28年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	〒612-8243 京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人が生き生きと生活して頂ける為に本人のペースを重視しつつ役割を持って頂き、生きることの感謝や満足、充実感に繋げ心豊かで楽しい日々を繋げている。 ・フロアを超えて交流を行い、散歩やドライブやレクリエーションなどの活動を広げている。 ・地域のニーズに応え、入居者6名に合わせ、3名の共用デイ利用者を受け入れている。 ・共用型デイの利用者ともレクリエーションなどを通じて輪を広げ、共用デイやフロアを越えておやつ作りなどをする事で今まで以上に活力ある生活が出来ている。また共用デイのご利用者にも、ご本人が希望されるような形を取りつつ、自由で心穏やかな時間を過ごしてもらえよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○理念に基づき、入居者のその人らしい暮らしの継続を維持しつつ、地域との関わりを展開する方向に繋げている。 ○月一回地域ボランティアによる書道継続。昨年に引き続き長岡天満宮にて入選される方があり、書道展示がされる。 ○日常的にも季節ごとの楽しみを大切に、入居者の体調にあわせ近隣の散歩やドライブを行い、挨拶を交わす中で地域との繋がりがやふれあいを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域の中の一員として地域の人々と交流するように努めている。また幼稚園や中学生との交流の場も行事に組み込んでいる。 ○運営推進会議では地域の方の代表や民生委員の参加もあり、意見を聞きながら交流もある。 ○氏神様へ初詣に行き、地域の人と接する機会がある。 ○四季を通じ地域の方々から春には竹の子や野菜、七夕には笹を頂き、ご入居者と共に季節を感じ楽しませてもらっている。また敬老の日においては地域の幼稚園児から花束も頂き、感謝している。 ○他のフロアとも協力して広島原爆記念に向けて平和を願いながら鶴を折り、市役所を通じて今年も2,000羽をおさめる事が出来た。 ○フロアーから2名の方が100歳を迎えられた。ご家族とともに長岡京市長を迎え、祝辞を頂き喜びとなった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○中学生実習を受け入れることで、認知症の人の理解や支援の方法を地域の方に発信している。 ○認知症サポーター養成講座や地域の講座の講師として派遣している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○2ヶ月に一度、運営推進会議を催され、ユニットの現状報告を行い、意見を頂きケアの向上に繋げている。 ○家族の率直な意見を参考にしている。 ○職員の移動や人材育成についてもご意見をいただき、私どもの課題として受け止めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○運営推進会議委員会のメンバーに近隣の方や、行政・地域包括支援センターの方も含まれており、アドバイスや意見をサービスの中に取り入れ、暮らしの場で活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体及び言葉の拘束についての議論を行い、職員間の声かけにより拘束することなくケアを行い入居者の気持ちの尊重に努めている。 ○家族の思いや意見を積極的に取り入れている。 ○身体拘束だけでなく言葉による拘束も含めユニット会議において研修を行い、職員の意識向上に努めている。 ○外へ出たい気持ちが強い気持ちの方へは毎日散歩に同行し、気持ちを閉じ込めず、落ち着いて生活してもらうよう配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○ユニット会議内で、西山の郷の高齢者虐待防止マニュアルと行政主催の外部研修内容に沿って、職員全員が読みあわせを行なう。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○ユニット内で1名の方が後見人が決まるまで権利擁護制度を利用されている。成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の研修会で学んだことをユニット会議で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○見学によりホームの雰囲気を感じてもらったり、面談の時に不安や疑問点を出してもらい話し合いをすることで、理解や安心に繋がっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○運営推進会議にご家族に参加頂き、意見や要望を聞ける機会を設けている。ご家族の要望を受け入れ、ケアに活かす努力をしている。 ○外出の支援を申し出て下さるご家族がある。家族希望もあり行事のおしらせをして可能な限りご家族も外出に参加してもらっている。 ○ご入居者に関して言葉だけでなく表情や態度から何が言いたいのか、したいのかを本人に寄り添い気持ちを共有しながら、否定することなく傾聴する事で安心に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○リーダー会議や個人面談が設けられ、個々人の意見を述べ、運営の方向性を共に話し合う機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○職員の確保と共に業務の見直しなどにより介助の質を上げる工夫や時間の使い方、職員間の声かけの大切さ等を再確認しながら、工夫を続けやりがいのある職場環境の整備に努めている。 ○会社の人事処遇制度に則り、正規社員としての就業環境が整備されている。 ○パート社員の時間を変更することで午後の活動が多くなる。また、スタッフの休憩時間も確保できるようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○ユニット会議で研修の場を設け、外部研修報告や、ユニット内における統一ケアに向け話し合いを行なっている。看護職員による医療的ケアについて研修を全職員が受け、日々のケアに活かしている。 ○アセスメントを担当制にすることで意欲や意識が高まっている。また、行事の計画者になることでやりがいやスタッフの連携ができています。 ○個人が色々の研修に参加出来るようシフトの調整を行い、学びの機会を促している。 ○社会的な研修体系や支店の研修体系がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○法人内の研修・会議や京都府グループホーム協議会、また乙訓地域のグループホーム連絡会で研修会や勉強会を通して、相談しつつ交流を深め、サービスの向上に努めている。見学会などもあり参考になることも多い。 ○全社的にも研修や会議において、交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○初期面談により体調や歩行状態などを確認、安心安全な環境を作っていく。今までの生き甲斐活動や、趣味、環境など継続できるように努めている。 ○その人らしく生活して頂くために、ご家族と話し合いながら、安心できる環境づくりに努める。 ○本人の不安、困っている事を把握し寄り添うことで不安を軽減していく。今の心境を受け止め、今後どのように過ごしたいかを本人と家族共に考え、今何が出来るのかを考えていく。 ○他グループホーム2か所に夏祭りや交流会に参加させてもらい、また、当ホームの夏祭りに参加されたりして、お互い刺激となりケアの質の向上に繋がっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○ご家族の思いを汲み取り、困っている事や今後の不安を受け止め、入居者とご家族にとっての良き方向性を話し合い、安心に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○環境の変化による寂しさや不安など精神面での配慮と、安心できる場所になるために寄り添っていく。少しでも早く環境に慣れて頂くように努め、ご家族の安心につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○共同作品作りなど、豊富な人生経験を活かし生活の中で、職員と共に考え決定できるよう努めている。また本人の意思を尊重しつつ、できない所はさり気なくサポートしている。 ○入居者と職員は食卓を一緒に囲みながら温かみを感じ、一人一人の大切さを感じている。共に暮らす中で、信頼関係を築き人間関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○ご家族の気持ちや思いを傾聴し、心を共有したうえで一緒に本人を支えていく関係を築いている。 ○面会に来られて際、日々の様子や変化等を伝えて安心に繋げる。またご家族との貴重な時間を有効に使うよう工夫している。 ○ご家族がご本人の楽しみとなるものの材料を用意して下さったり、職員は励ましたり見守りながらご家族とともにご本人の楽しみを支える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○自宅にいた折、信心していたお寺にお参りに行くなど、馴染みの週刊を大切に支援している。 ○外出を利用し、今までの関係が途切れないように支援し個別対応している。 ○ご入居前のケアマネ、訪問看護師、ヘルパーさんの面会もある。いつでも気兼ねなく来て頂けるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○生活の流れに沿って、洗濯物干し・取り入れ・洗濯物たたみ等、各々の出来る事を分担し、共に支えあえるよう配慮している。 ○体操や合唱、しりとりやトランプ等、共に楽しむ時間を通じてお互いを尊重し、関わりながら人間関係の向上に役立っている。 ○入居者、職員共に食卓を囲むことで温かい雰囲気があり、入居者の会話の橋渡しとして互いのよりよい関係作りに努めている。 ○デイサービスの方と協力し、おやつにたこ焼き・クレープ・ケーキなど作り、お互いに支え合いながら完成する喜びを味わい、自分たちで作ったおやつを食べながら和やかな時間を過ごすことでより親密な人間関係を築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○必要に応じてグリーフケアをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○日常の暮らしの中でなにげない会話や動きから一人ひとりの希望や思いを把握する。居室に入って話を聞くこともある。 ○言葉で思いを伝えにくくなった人にはコミュニケーションやスキンシップを通じ、表情や醸し出される雰囲気の中から、入居者の思いを知るように職員は努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入所前にご家族へシートをお渡しして、記入いただいたことを参考にしている。また入所後も何気ない会話より、本人やご家族から聞いた事を情報として記録に残す。 ○これまでのサービス利用の経緯をケアマネより聞いて把握に努めている。 ○ユニット会議で情報を共有し、日常生活や会話に活かす。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○バイタルチェックと必要に応じた水分摂取量、排便チェックを行い24時間の変化を捉える。顔色や行動などから体調や気分の変化を感じていく。心身状態の観察及び洞察を行ない記録する。 ○体調に変化があった場合、観察記録表を用い、看護職員へ相談したりかかりつけ医に報告、指示を仰ぐ。 ○精神及び身体状態に即したケアを提供する。 ○快・不快の時間を捉え、早目の対応で穏やかな時間を過ごせるように工夫する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○本人らしく穏やかな生活を送るために、職員共通のケアが出来るように生活援助計画に織り込んでいく。 ○家族、本人の希望を取り入れた生活援助計画を作成している。 ○毎月のケアカンファレンスでモニタリングを実施する。 ○医療分野に関しては看護師やかかりつけ医の意見を参考にする。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○日々の入居者の言葉・背景から読み取れる状態を把握し、ケース記録をとる。 ○ケース記録をもとにアセスメントやモニタリングを行い、ユニット会議などを通じて話し合い、次の援助計画の基本的なマネジメントをしている。 ○急激な変化のある時はミニカンファを行い、統一ケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○居宅介護支援事業所及び訪問介護事業所を併設しており、情報の共有化の中で、福祉用具や介護用品の相談をする。 ○地域の社会資源や民生委員等、ネットワークの中で徘徊模擬訓練等にも協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○月に一度書道の会のボランティアさんに来てもらい、充実した時間を過ごしている。お正月の書初め展に出品。毎年参加されている方であるが今年は100歳の記念の作品となる。本人はもとより地域の方やご家族の楽しみにもなっている。 ○元スタッフの協力で畑で野菜作りしてもらい収穫時期に参加している。秋のお芋堀は皆の楽しみとなっている。 ○大正琴演奏会も参加して、一緒に歌ったりして楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○本人及びご家族の希望により、馴染みの医師がかかりつけ医になっており、2週間に一度訪問診察またはご家族と受診に出かけられる。 ○ぼたんフロアで5名のかかりつけ医に、診断いただく。 ○発熱等、突発的な事に関しても随時連絡が取れる状態である。 ○受診記録や特記事項は在宅療養手帳に記入する。看護職員や職員の気付きも記入しかかりつけ医と連携して体調の見守りをしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○週に一度看護師による健康管理を行い、日常の健康状態を報告及び相談しながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。 ○看護職員による医療的ケアの研修を年2回実施、全ての職員が参加する。学びを日々のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入居者が入院されると、できるだけ早期に退院できるようにご家族と共に病院の主治医に働きかける。面会に行き本人の気持ちに寄り添い安心感へと繋げている。また病院関係者より情報を得て、退院時に向けて環境を整えていく。 ○食事形態や嚥下の状態などSTに随時相談、実際の介助を見せてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○入居時、ターミナルについて本人及び家族の思いが記録されている。 ○必要に応じ医師・家族・職員との話し合いがなされ、同意書も交わした上でご家族の協力のもと安心して穏やかな終末を迎えられるよう、医師・看護師とも相談しながら統一したケアを行っている。 ○日常医療管理以外には必要に応じ地域の訪問看護ステーションと連携して看取りケアを実践している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○入居者の急変や事故発生時はマニュアルに添い、対応できるよう訓練を行なっている。 ○救命救急講習を受けているスタッフがいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年2回の消防署参加の避難訓練を実施し、入居者・職員が迅速に対応出来るよう実践力を身につけている。 ○マニュアルにより地域の方にも協力体制をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○お一人お一人を大切に思う気持ちを言葉にして声掛けを行っていく。 ○プライバシー保護に関しては教育体制で徹底を図ると共に、日常的に職員相互に注意しあう。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○日常生活の中で生活に沿って、レクリエーション等入居者の意見を聞き、何をするかなど相談しながら参加して頂いている。 ○入居者の表情や態度から気持ちを読み取り、ゆっくりはっきりと声かけを行い自己決定出来るよう支援する。 ○散歩が趣味の方が入居され、本人の希望により毎日一緒に散歩に出かけている。(個別対応)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○入居者の意思に沿った時間の使い方を重視し、お一人お一人に合わせての過ごし方を配慮し、皆が満足出来る暮らしに繋がるように工夫したり話し合ったりしている。 ○お一人お一人の生活ペースを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○その人らしさが表現できるように、服装や整髪等気配りをしている。お誕生日などはその人のおしゃれを楽しむプレゼントにしている。 ○毎日更衣をし、翌朝起きてから洗濯した清潔な下着、洋服を着る。当たり前でありながら身だしなみを本人が意識できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○入居者の能力に応じ台拭きや下膳、洗いものなどをしてもらい、一緒に生活している思いを深めてもらうことが出来る。 ○咀嚼や嚥下の状態を見てお一人お一人にあった食事形態を用意するが、見た目美しく他者と比較しても見劣りしないように工夫している。ミキサー食に関しては味を重視して、食事介助時に何であるのかを伝えて食事を楽しんでもらえるようにも工夫している。 ○食事時間は音楽をかけ、ゆったりした気持ちで頂けるように配慮している。 ○入居者、デイ利用者、職員と共に囲む食卓は他者を思いやり、温かい雰囲気溢れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事摂取量及び水分チェック表を用い、摂取時間や量、内容などを観察している。 ○健康状態や能力に応じ、粥・きざみ・ミキサー食に変更し、食べやすい形態にしている。 ○食事に関しては本人のペースを最重要と考えている。摂取量の少ない方には好きなものを把握して楽しく食事してもらえよう配慮し、勿論栄養の確保にも繋げている。またその気になってもらうための工夫として好きな物を一口食べてもらったり、形状や水分補給時にはお茶ゼリー等も考える。 ○食事低下した時は主治医と相談し、経口栄養剤(ラコール)を使用する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○声かけ・見守り・介助を行い、毎食後の口腔ケアに努め、表を作成しチェックしている。 ○義歯の方は夜間ポリドントを使用し、消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○トイレの場所の表示を標示をして、スムーズな移動による気持ちよく排泄を行う。 ○排泄パターンや習慣を活かして、本人が苦痛なくトイレに行ける支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○便秘予防の為常に水分のチェックや運動の声かけ、食事の工夫を行なう。腹部マッサージやヨーグルトなど繊維を含んだ食べ物を取ってもらう等、工夫をしている。起床時はコップ一杯の水を飲んでもらう事もある。 ○慢性的な便秘に関しては、医師の指示のもと下剤を使用しコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	○入浴嫌いの方は特に体調やタイミングを見計らい、その気になれる声かけを行い、入浴を楽しめるような支援をしている。 ○季節を取り入れ、柚子湯なども取り入れている。 ○体調に応じ、シャワー浴や清拭、足浴や手浴にて対応する事もある。 ○希望があれば夜でも入浴することが出来る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○生活習慣や利用者の状況に応じて、休息したり安眠できる環境を整えている。 ○混乱時は傾聴し、本人の気持ちに共感して、安心して入眠できるよう心に添える支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○内服の目的・用法・用量について理解し、誤燕の無いよう確実に服用できるまで確認する。 ○処方が変わった場合は業務日誌に記入し、申し送りにて職員全員が共有する。 ○チェック項目表を作成し、ケアレスミスを防ぐため担当職員がサインをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○入居者の生活歴や性格、現在おかれている状況を把握し、その方にあった役割や楽しみを暮らしに取り入れる事で、充実感や満足感を得てもらう。挿し木や編み物、塗り絵、書道など趣味や得意なことで生活を豊かにされている。洗濯ものたたみを役割にしている人もある。 ○散歩やドライブ、合唱やしりとり、トランプなども取り入れ、各々が持てる力を発揮でき且つ、一つの事を通じ共感を得る空間を持つ取り組みをする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○入居者の希望に添えるよう随時散歩やドライブに行っている。また仲間と散歩する事で、身体も弾み楽しい時間を共有する事が出来る事も目的の一つとしている。外食をすることも楽しみとなっている。 ○ご家族と一緒にゆかりの場所へ散歩やご自宅まで足を伸ばされ、ゆっくりされる時もある。 ご本人の郷里へ一泊旅行された方もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができなくなり、買い物の代金は家族請求になっているが、希望があれば同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○ユニット内で携帯電話の使用者が2名おられ、家族の絆を大切にされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○共有スペースに共同作品や個人作品を展示することで満足につながり和やかな雰囲気を作っている。観葉植物を置いたり生活感や季節感を取り入れ、落ち着く場所になるよう工夫している。 ○浴室やトイレは表示することや言葉をかけることで混乱を避けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○共用型デイの利用者も含め、皆で楽しむスペースと一人でくつろぐスペースをソファの位置や観葉植物の配置などを工夫して作っている。一角においたソファは新聞を読んだり、テレビをみたり、また、他者と会話を楽しむなどくつろぎの空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○ご家族と相談しながら馴染みの家具を持ち込み、ADLに合わせた使い勝手の良い工夫や本人の作品展示等に努め、安らぎの空間作りを行なっている。 ○ソファでくつろいだり、こたつを置いておられるところもありご家族と共にくつろげる自由な時間と空間がある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○廊下・浴室・居室にプレートや手すりを設置する事で自立した生活が送れるように工夫している。 ○ご家族の協力のもと、ADLにあわせ歩行器・車椅子を使用し、行動範囲を拡大している。		